

第1章 調査の概要

1. 調査実施の目的

令和8年1月1日現在、台東区には人口の約9.8%にあたる21,346人の外国人が居住している。台東区では、令和3（2021）年度に「台東区多文化共生推進プラン」を計画期間5年として策定し、これまで様々な多文化共生施策を展開してきたところだが、その間、日本語教育機関認定法の成立や入管法等の改正等、在住外国人を取り巻く状況が変化してきた。こうした状況を踏まえ、さらなる多文化共生の地域づくりを推進するために、今後のプラン策定の基礎資料を得ることを目的とし実施した。

2. 調査実施の概要

下記の方法により「アンケート調査」を実施した。

	外国人意識調査	日本人意識調査
調査地域	台東区全域	
調査期間	令和7年9月10日～10月1日	
調査対象	18歳以上の区内在住の外国人4,000人	18歳以上の区内在住の日本人2,000人
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出	
調査方法	郵送配布／郵送回収またはWEB回答	
言語	やさしい日本語版と対象者の国籍に合わせた言語別調査票（翻訳版の調査票）を同封	日本語
回答数	975件（内、WEB回答数439件）	914件（内、WEB回答数244件）
回答率	24.4%	45.7%

3. 言語別調査票発送の内訳（外国人意識調査のみ）

言語別	発送数（部）
やさしい日本語	4,000
回答者の国籍に合わせた言語	4,000
英語	817
中国語（簡体字）	2,031
中国語（繁体字）	145
韓国語	501
ベトナム語	181
タガログ語	164
ネパール語	161

4. 調査項目

外国人意識調査	日本人意識調査
1. 回答者の属性	1. 回答者の属性
2. ことばについて	2. 地域に暮らす外国人とのかかわりについて
3. 台東区の取組について	3. 多文化共生のまちづくりについて
4. 日頃の暮らしについて	
5. 地域の日本人とのかかわりについて	
6. 地域での活動について	

5. 調査結果の見方

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（％）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。従って、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、％を足し合わせて100％にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、％の合計が100％を超える場合がある。
- ・本文中で％の比較は「ポイント」と表記している。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を簡略化している場合がある。
- ・回答者数「n」が30未満の場合、比率が上下しやすいため、本文中では原則として触れていない。
- ・本文中で、各項目と全体平均の％の比較は、原則として差が5ポイント以上あるものについて触れており、「5ポイント以上高い」「5ポイント以上低い」と表記している。例外的に5ポイント未満のものについては「やや高い」「やや低い」と表記している。
- ・本文作成にあたり原則、次のような表現方法を用いた。

例	表現
19.0％～20.9％	約20％
21.0％～23.9％	20％を超える
24.0％～28.9％	20％台半ば

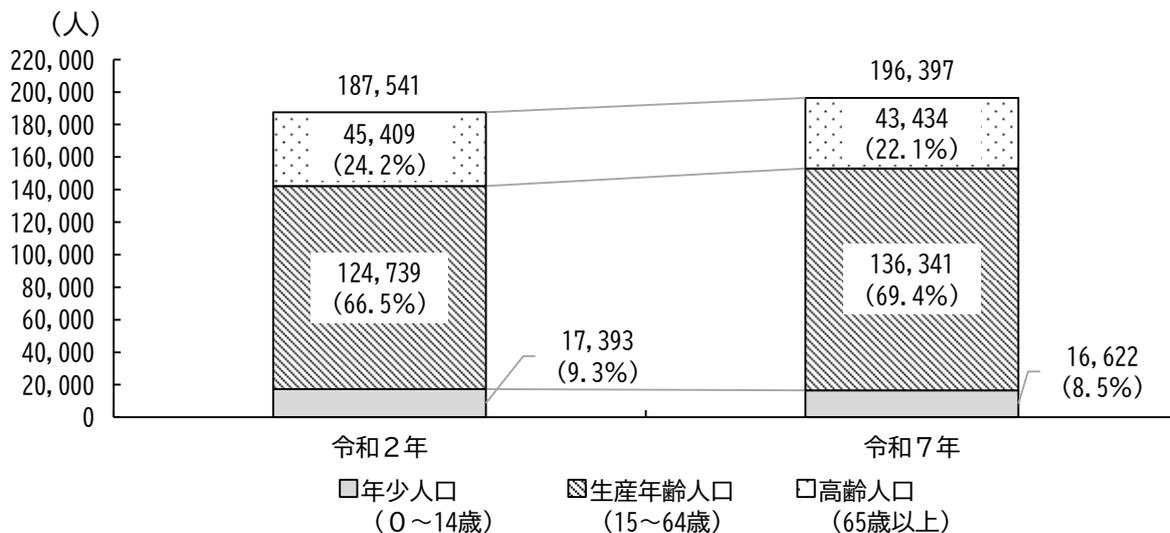
6. 台東区の人口等の推移

本調査は経年で実施していることから、調査結果の背景となる前回調査時と今回調査時の人口等の基礎統計データを下記のとおり記載する。

※令和2年、令和7年ともに4月1日現在のデータである。このため、令和7年のデータは調査対象者を抽出した6月時点のデータではないことに留意する必要がある。

(1) 日本人の年齢3区分別人口の推移

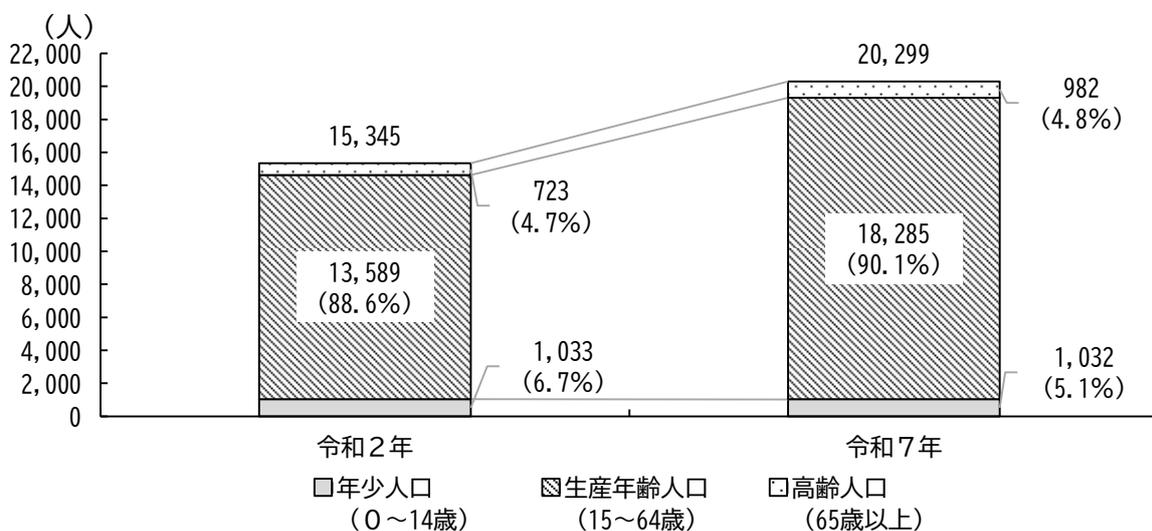
台東区に在住する日本人人口は、令和2年で187,541人だが、令和7年には196,397人となり、8,856人増加している。年齢別にみると、生産年齢人口は増加しており、年少人口および高齢人口は減少している。



資料：台東区住民基本台帳（各年4月1日現在）

(2) 外国人の年齢3区分別人口の推移

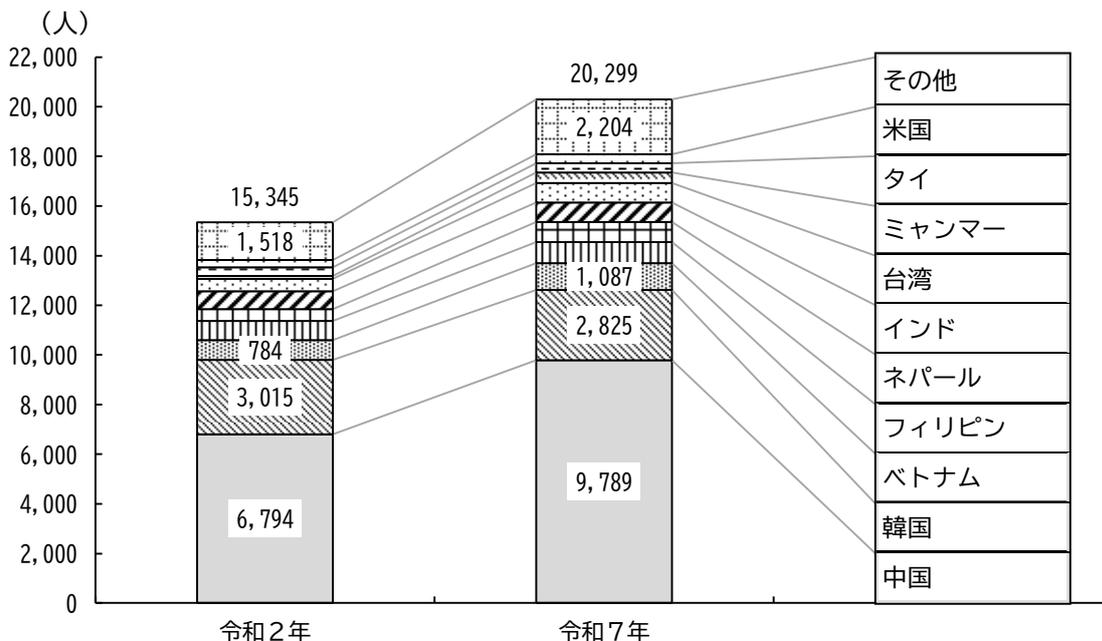
台東区に在住する外国人人口は、令和2年は15,345人だが、令和7年には20,299人となり、4,954人増加している。年齢別にみると、生産年齢人口が最も増加しており、4,696人増加している。



資料：台東区住民基本台帳（各年4月1日現在）

(3) 外国人の国籍・地域別人口の推移

令和2年及び令和7年どちらも中国が最も多く、外国人人口に占める割合は40%以上となっている。また令和2年と令和7年を比較すると、中国は2,995人増加しており、他の国籍・地域と比べて増加数が最も多い。このほか、ネパールは325人、ミャンマーは311人、ベトナムは303人、台湾は277人増加している。一方、韓国は190人減少している。



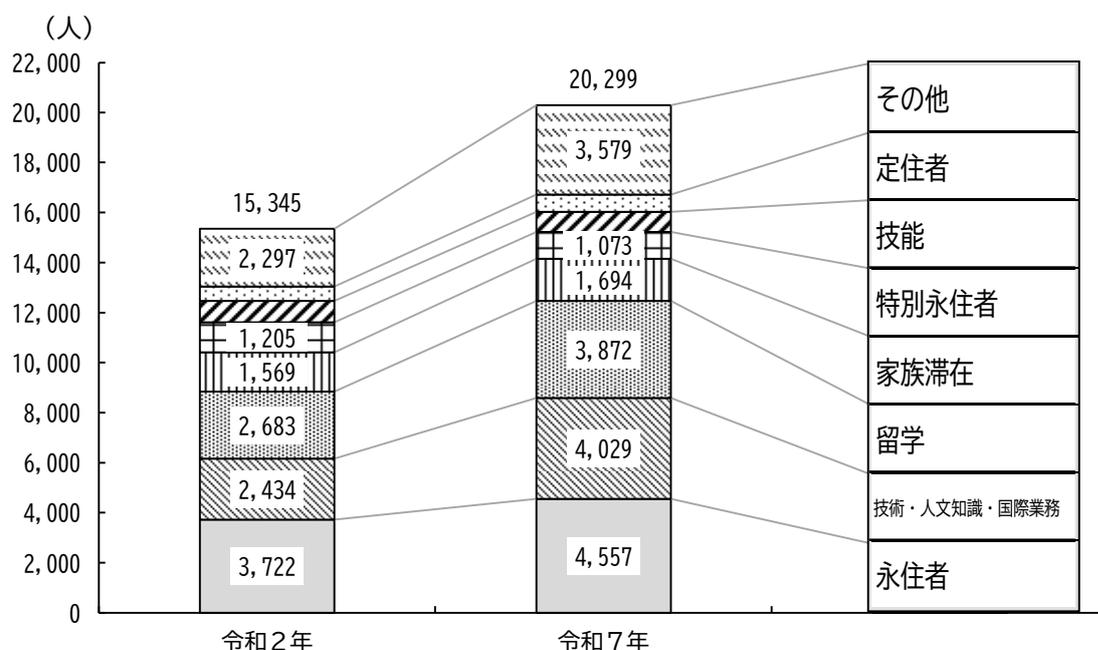
(上段: 人、下段: %)

	中国	韓国	ベトナム	フィリピン	ネパール	インド	台湾	ミャンマー	タイ	米国	その他
令和2年	6,794 44.3	3,015 19.6	784 5.1	773 5.0	479 3.1	717 4.7	501 3.3	118 0.8	355 2.3	291 1.9	1,518 9.9
令和7年	9,789 48.2	2,825 13.9	1,087 5.4	847 4.2	804 4.0	794 3.9	778 3.8	429 2.1	373 1.8	369 1.8	2,204 10.9

資料: 台東区住民基本台帳 (各年4月1日現在)

(4) 外国人の在留資格別人口の推移

令和2年及び令和7年どちらも永住者が最も多い。令和2年は2位が留学、3位が技術・人文知識・国際業務となっていたが、令和7年では順番が入れ替わっている。令和2年と令和7年を比較すると、技術・人文知識・国際業務及び留学はいずれも1,000人以上増加している。このほか、永住者は835人、家族滞在は125人、定住者は114人増加している。一方、特別永住者は132人、技能は54人減少している。



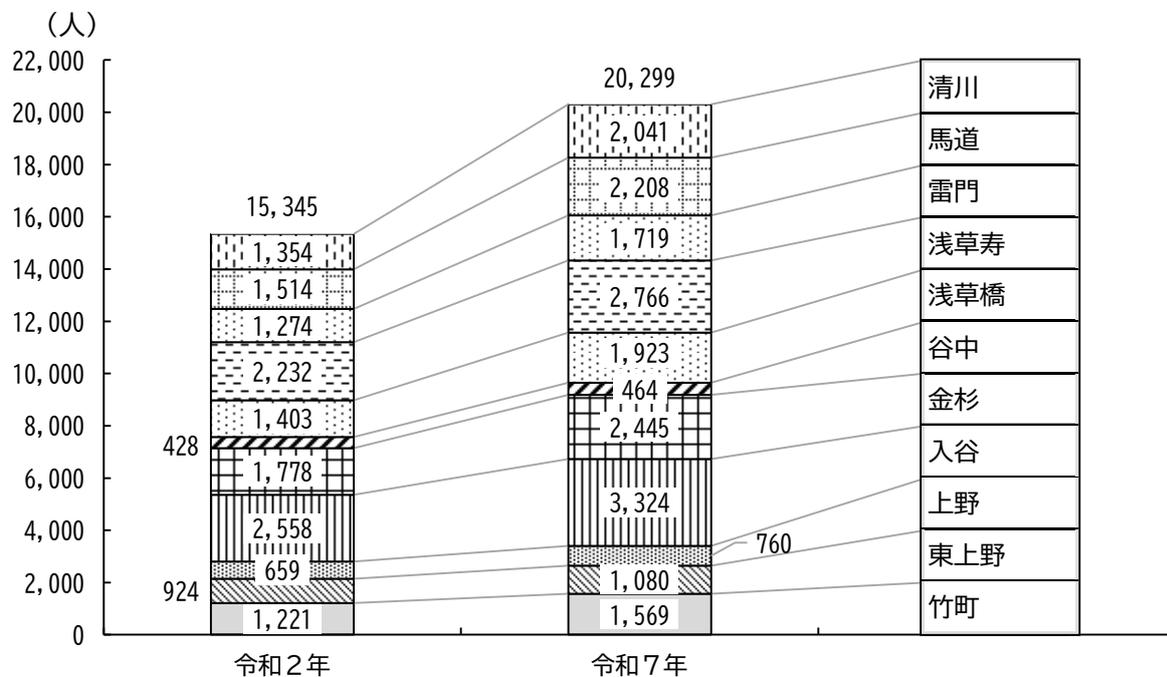
(上段：人、下段：%)

	永住者	技術・人文知識・国際業務	留学	家族滞在	特別永住者	技能	定住者	その他
令和2年	3,722 24.3	2,434 15.9	2,683 17.5	1,569 10.2	1,205 7.8	853 5.5	582 3.8	2,297 15.0
令和7年	4,557 22.5	4,029 19.8	3,872 19.1	1,694 8.4	1,073 5.3	799 3.9	696 3.4	3,579 17.6

資料：台東区住民基本台帳（各年4月1日現在）

(5) 外国人の地区別人口の推移

令和2年及び令和7年どちらも入谷が最も多く、次いで浅草寿の順となっている。令和2年と令和7年を比較すると、すべての地域で外国人人口が増加しており、増加数が多い順では入谷(766人増)、馬道(694人増)、清川(687人増)、金杉(667人増)などとなっている。



(上段：人、下段：%)

	竹町	東上野	上野	入谷	金杉	谷中	浅草橋	浅草寿	雷門	馬道	清川
令和2年	1,221 8.0	924 6.0	659 4.3	2,558 16.7	1,778 11.6	428 2.8	1,403 9.1	2,232 14.5	1,274 8.3	1,514 9.9	1,354 8.8
令和7年	1,569 7.7	1,080 5.3	760 3.7	3,324 16.4	2,445 12.0	464 2.3	1,923 9.5	2,766 13.6	1,719 8.5	2,208 10.9	2,041 10.1

資料：台東区住民基本台帳（各年4月1日現在）